梓川地区から参加の新成人　松本市総合体育館

梓川公民館報

梓川の世帯数・人口

世帯数	4,696戸
人口	12,653人
男	6,237人
女	6,416人

（令和元年. 12.1現在）

第35回 梓川文化祭

芸能祭・音楽祭

梓川文化祭の芸能祭および音楽祭が11月10日（日）に開催されました。当日は、秋の気配が深まるなか、天候にも恵まれ、多くの住民が文化祭に訪れました。

芸能祭は午前中に梓川福祉センターで開催され、梓川小学校金管バンド部や梓川中学校吹奏楽部など、あわせて7つの団体が出演しました。それぞれの団体が創意工夫を凝らした熱のこもった演奏やダンスを披露し、観客の皆さんも演目終了時には、称賛の拍手を送っていました。

午後からは会場を梓川公民館に移し、音楽祭が開催されました。4つの合唱団体が出演し、素晴らしい歌声でさまざまな曲目を合唱しました。演目の後半は各団体の皆さんが参加し混声合唱団梓川として「大地讃頌（さんしょう）」を熱唱し、最後は観客を含め全員で「信濃の国」と「ふるさと」を合唱し、音楽祭を締めくくりました。

▲芸能祭（梓川福祉センター）

▲音楽祭（梓川公民館）

美術展

梓川文化祭の美術展が、梓川アカデミア館で11月7日から10日までの4日間開催しました。

12団体が出展し、それぞれのブースで彫刻・俳句・短歌・絵画・工芸・書・写真・手芸・沈金・押花・文書研究資料・生け花などの作品の展示を行いました。

開催期間中の来館者は300人を超え、訪れた人はそれぞれの作品を熱心に見学していました。

▲美術展（梓川アカデミア館）

令和2年の御柱

横沢町会（中）1月2日

横沢町会（西下）1月2日

花見町会 1月1日

家庭教育学級講座

上大妻公民館 スポーツ吹矢教室

11月24日（日）午後1時半から上大妻集落センターで、鈴木健一氏（日本スポーツウエルネス吹矢協会松本アルプス支部会長）を講師に、スポーツ吹矢教室が開催されました。

講師からスポーツ吹矢に必要な呼吸法や、その呼吸法を行うことによる体への効能を学習し、実技の補助をしていただく3人の方の指導により、スポーツ吹矢の体験を行いました。

道具は、長さが約120センチメートル、内径が13ミリメートルの筒と、長さ20センチメートルで重さが約1グラムの矢を使用します。

吹矢の基本は、まず的に向かい「礼をする」。【構える】足を肩幅に開いて構え、矢を筒に入れます。【筒を上げる】両腕で筒を高く上げながら、鼻から息を吸います。【息を吐く】筒をゆっくり下げながら、口から息を吐ききります。【息を吸う】的を見て息を吸いながら、筒を的に向けます。【吹く】一気に吹きます。【息を調える】呼吸を調えます。【礼をする】的に向かい一礼します。

当日は17人の住民が参加し、それぞれ数回ずつ競技を行いました。競技なので、的に矢が刺さった場所の点数を数え、みんなで競いながら楽しい時間を過ごしました。

矢を吹く時にその都度同じ動作ができると、同じ場所に矢が二重に刺さるダブルが出ることもあり、呼吸法の大切さや姿勢などを学ぶ良い機会となりました。

▲的を狙う参加者

家庭教育学級講座

南大妻公民館 鈴木雷太氏講演会

11月24日（日）に南大妻集落センターで、家庭学級講座が開催されました。今年は、講師に鈴木雷太氏を招き、「AACR（アルプスあづみのセンチュリーライド）が地域にもたらすもの」をテーマに講義がありました。鈴木氏は、自転車競技選手で、2000年シドニーオリンピック日本代表選手です。現在は、松本市でスポーツバイシクルショップ「BIKE RANCH（バイクランチ）」を経営しており、AACRは、鈴木氏がプロデュースするサイクリングイベントです。毎年春（4月と5月の2回）に、梓水苑をスタートして白馬まで行って帰ってくるルートで行われています。

令和元年はこのイベントに全国から約4000人が参加し、約3800人が松本市周辺に宿泊し、食事やお土産購入などで周辺地域の活性化に貢献しています。また、2018年からチャリティーも行い、地域の道路環境整備や医療、ポリオ撲滅活動に協力しています。

鈴木氏は、今後もAACRをはじめ自転車を通じて地域社会や世界に貢献していきたいと話していました。

▲鈴木雷太氏の講演会の様子

南大妻公民館 そば打ち大会

11月3日（日・祝）に毎年恒例の「そば打ち大会」が南大妻集落センターで開催されました。子どもからお年寄りまで約30人が参加しました。

参加者は町内のそば打ち名人に手ほどきを受け、慣れない手つきでそば打ちを体験しました。最初は、ぎこちない手つきでしたが、こねたり伸ばしたり、体験を重ねていく内にだんだん様になってきて、皆さんそば打ちを楽しんでいました。打ったそばはすぐに茹でて、いただきました。麺つゆも出汁から取った特製で、みんなで作りたてのそばを美味しく味わいました。

個人的には、切る作業が一番大変でした。また、材料の計量がとても大切で、水の量が少しでも違えば、そばのでき方が変わってくるので大変苦労しました。そばの打ち方を学び、そば打ちを通して、地域のみなさんとの交流も深まり、大変満足な一日を過ごしました。

▲そば打ちを楽しむ参加者